

(令和2年10月試験研究業務月報)

試験研究課題：農地土壌炭素貯留等基礎調査（有機物連用試験）

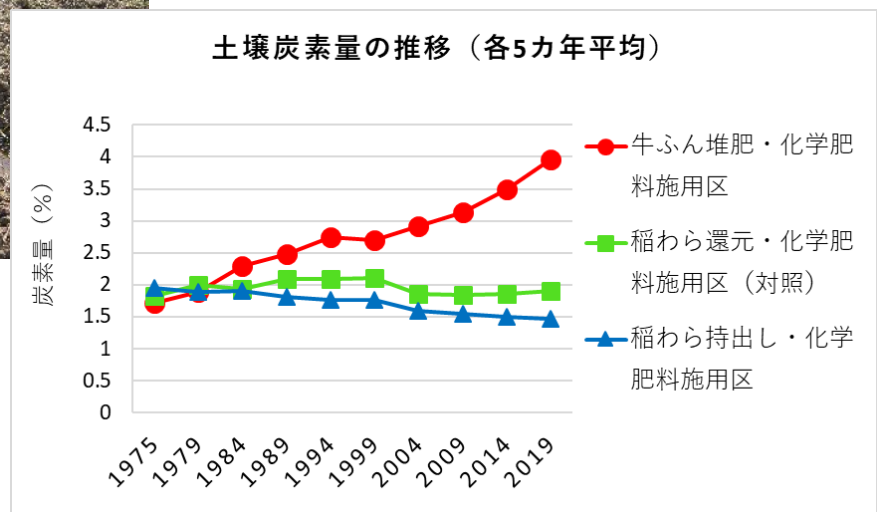
研 究

農地に炭素を貯留し地球温暖化防止

地球温暖化緩和対策として、農地を炭素の吸収源として位置づけ活用するには、農地の炭素貯留量を算定する必要があります。

そこで、府内の水田、普通畑、茶園、果樹園、草地の土壌を定期的に採取し、土壌に貯留される炭素量を調べています。普及センターの協力を得て、今年度は、京都乙訓及び南丹地域の水稲収穫後の水田と普通畑で土壌炭素量調査及びアンケート調査を行っています。また、農林センター内の水田で1975年から継続している有機物施用の有無など、異なる農地管理方法による炭素貯留量の変化も調査しています。

(参考) 農林水産省がこの調査の全国の結果を取りまとめ、環境省が工業分野等も含めて、気候変動に関する国際連合枠組条約に基づき、「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」として国連に提出することになっています。



採土器による深さ 30cm までの土壌採取（10 月 13 日：京丹波町）と

土壌炭素量の分析（農林センター）

農 林 セ ン タ ー